

「人こそすべて」との考えに基づき、 充実した人材育成制度を構築



新人が一人前となるための 環境を整備

平岩塗装はさまざまな大型建築物の建築塗装、橋梁や鉄塔などの鋼構造物塗装、建物の改修工事塗装、コンクリート劣化防止工事などを業務とする企業です。同社は東京タワーの塗り替え工事を50年以上にわたって受け持ち、その技術力には定評があります。また人材教育も高く評価され、平成27年度「東京都中小企業技能人材育成大賞知事賞」の建設・建築部門で優秀賞を受章しています。

平岩塗装では、毎年ハローワークを通して高校卒業予定者を対象に新人を募集し、[※]作文と面接によって選考します。平岩敏史代表取締役社長は採否のポイントについて、「技術や技能は入社後に先輩社員から十分学ぶことができます。大切なのは自分を鍛え、成長しようとする根性と忍耐力です」と語ります。

あらかじめ職場の環境に親しんでもらうために、高校生を対象としたインターンシップも実施しています。また平岩社長は、地方出身の入社予定者の親元に向き、どんな会社かを説明するようにしています。

「私をご挨拶させていただき『責任をもってお子様をお預かりする』とお話することで、親御さんにも安心していただけます」（平岩社長）。

新入社員が東京でアパートを借りる場合、家賃の8割を会社が負担してい

ます。昨年は社員寮となる建物を購入しました。

新人は、ふだん現場で先輩社員の指導を受けながら仕事を覚えていきます。さらに全ての新人が、東京都塗装工業協同組合が運営する東京都塗装高等技術専門校（本誌2013年夏季号参照）に派遣されます。彼らは技術専門校に週1回、2年間通いますが、この時間帯は出勤扱いとし、費用は会社が負担します。

「技術専門校では数多くある塗料の種類や特性、法律に関係することなど、塗装に関する幅広い知識を身につけることができます。そうした知識はすぐには役に立たなくても、将来、本人はもちろん会社にとっても強みとなります」（平岩社長）。

多彩な取り組みで 人材の育成を図る

平岩塗装では毎年年度初めに教育・訓練計画を立てています。この計画は外部講習を中心にプログラムが組み立てられ、年度ごとに受講者を選び派遣しています。受講者は受講後に受講記録を作成し、会社に報告します。また塗装技能士2級・1級、土木や建築の施工管理技士2級・1級などの資格取得にも力を入れており、外部講習、資格取得とも必要な費用は、会社が負担します。さらに合格が難しいとされる1級土木施工管理技士の資格取得者や建設マスターの顕彰を受けた社員には報奨金を授与し、特別昇給を行うようにしています。

こうした取り組みのほかに、年に4回、社員勉強会が開かれます。ここでは塗料メーカーなどから講師を招き、さまざまなテーマの講習が行われます。また平岩社長自身が講師となり、社会人としてのマナーや一般常識などを講義します。

「社員たちが社会人としても恥ずかしくない人間として仕事に向き合うことを期待しています。ひいてはそれがお客様からの信用を得ることにつながります」（平岩社長）。

仕事の内容は所属する部門によって異なります。同社では部門間の異動を行い、特定分野に偏ることなくさまざまな仕事を体験させて、社員の多能工化を図っています。平岩社長はその意図について「仕事の種類にかかわらず必要な人員を確保できるので、東京タワーの塗装工事など、大規模な仕事にも対応できます」と話します。

同社がとりわけ力を入れているのが安全教育です。年に1回開かれる安全大会では、社員はもちろん協力会社の現場担当者も対象として安全をテーマとした講習が実施されます。このほか年4回、職長など現場のリーダーに安全教育を行う、事業主講習会が開かれています。

このように、人材教育に努めることについて平岩社長は「わたしたちの仕事は機械に置き換えることができません。『人こそすべて』と考えてこそ、明るい展望が描けるはず」と話しています。